

2022年3月期 決算説明会

2022年6月14日

高松機械工業株式会社(証券コード：6155)

TAKAMAZ

目次

1

連結決算内容

2

今期見通し

3

事業戦略

4

中期計画 2024

(参考) 会社概要

当資料は、作成時点において一般的に認識されている経済・社会等の情勢及び当社が合理的に判断した一定の前提に基づいております。記載内容は、新型コロナウイルス感染症の影響をはじめとした経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更する可能性があります。ご承知おきいただきますようお願いいたします。

1

連結決算内容

■ 連結累計決算状況

(百万円)

| | 2021/3 | | 2022/3 | | 対前期比 | |
|---------------------|-------------|-------------|---------------|--------------|---------|------------|
| | 金額 | 対売上 (%) | 金額 | 対売上 (%) | 増減額 | 増減率 (%) |
| 売上高 | 13,432 | 100.0 | 16,720 | 100.0 | + 3,287 | + 24.5 |
| 売上原価 | 10,572 | 78.7 | 12,442 | 74.4 | + 1,869 | + 17.7 |
| 売上総利益 | 2,860 | 21.3 | 4,278 | 25.6 | + 1,418 | + 49.6 |
| 販管費 | 2,853 | 21.2 | 3,184 | 19.0 | + 330 | + 11.6 |
| 営業利益 | 6 | 0.0 | 1,093 | 6.5 | + 1,087 | + 16,636.0 |
| 経常利益 | 233 | 1.7 | 1,180 | 7.1 | + 946 | + 405.0 |
| 親会社株主に帰属する 当期純利益 | △115 | △0.9 | 795 | 4.8 | + 910 | 黒字化 |

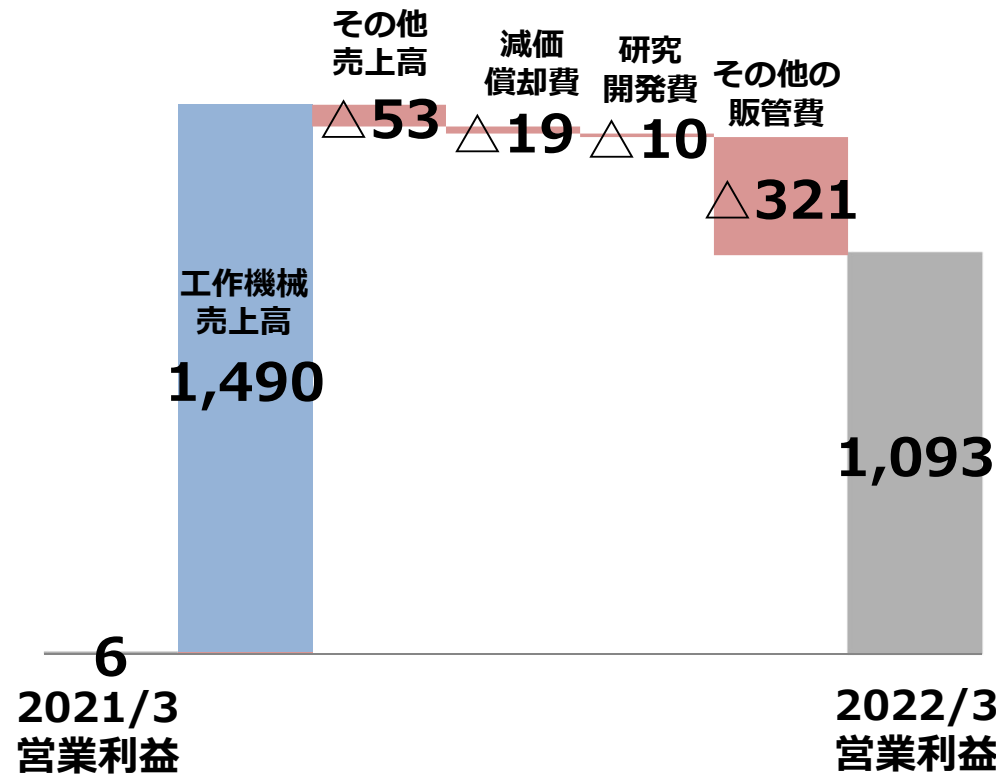
- ✓ 工作機械業界では、コロナショックによる需要の落ち込みから回復基調で推移し、2021年度の業界受注総額は歴代3番目となる1兆6,675億円（前年同期比68.7%増）
- ✓ 売上高および営業利益は、自動車関連をはじめとした投資ニーズを捉えた受注活動とコスト改善で、大幅に回復
- ✓ 2022年3月期より収益認識基準を適用し、売上高は4億24百万円減少（利益影響なし）

■ 連結累計決算状況

営業利益増減分析

(百万円)

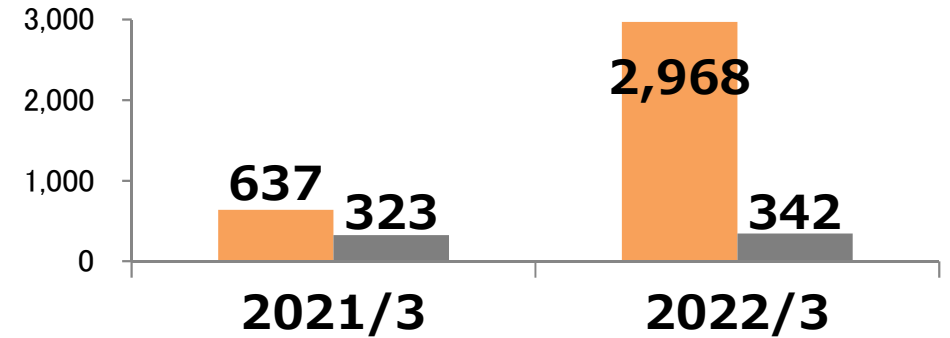
■ 収益の増加 (費用の減少)
■ 費用の増加 (収益の減少)



設備投資額・減価償却費

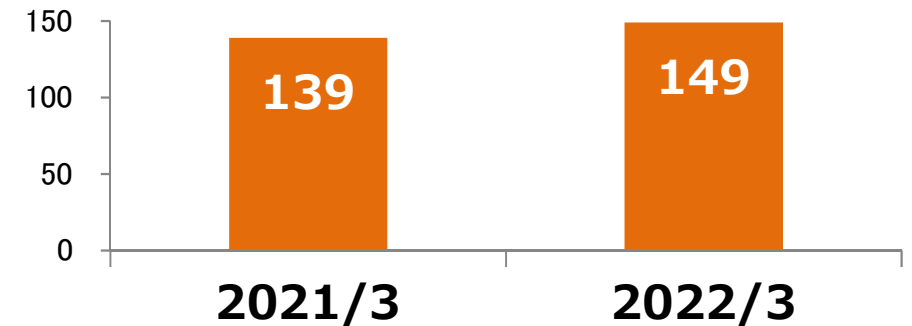
(百万円)

■ 設備投資額
■ 減価償却費



研究開発費

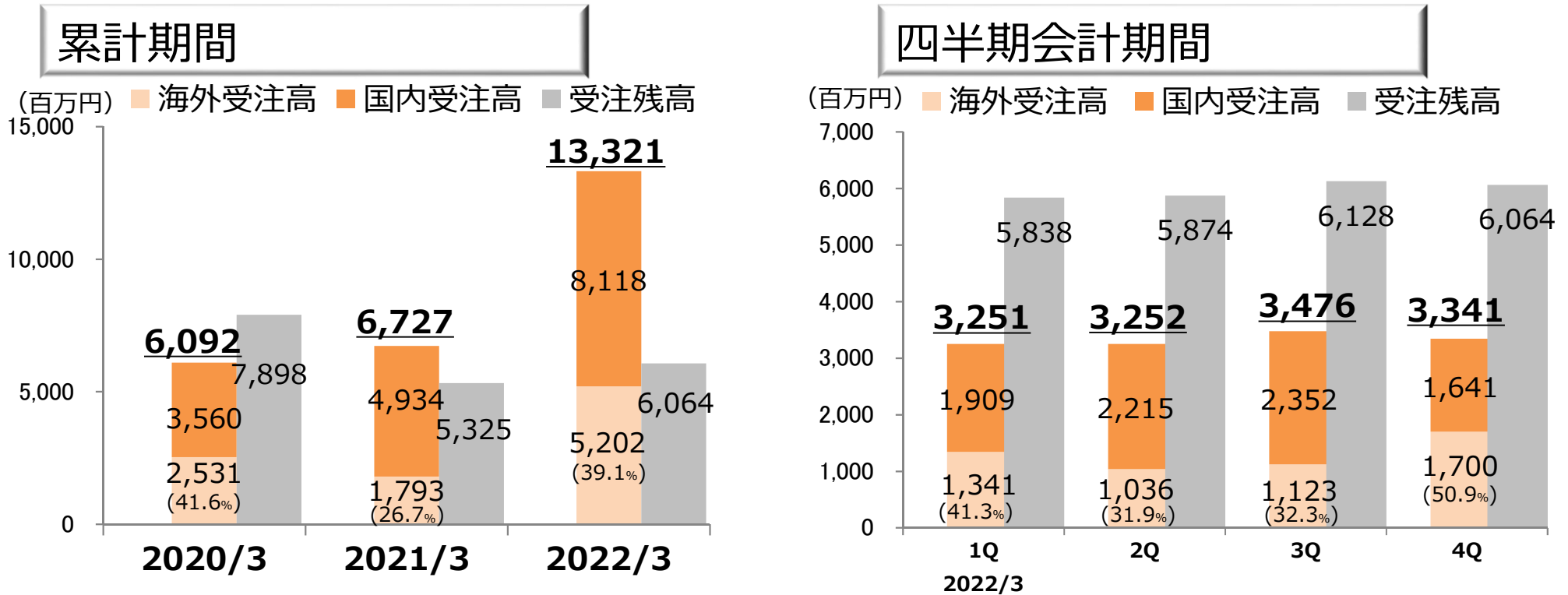
(百万円)



- ✓ 営業利益は、工作機械売上高の増加に伴い大きく回復
- ✓ 営業活動の本格的な再開により、営業経費が増加
- ✓ 2022年3月期の設備投資の主な内容は、「あさひ工場」の建設費用27億41百万円

■ 工作機械事業の状況

受注高・受注残高の推移



| | |
|---------|---|
| 決算のポイント | <ul style="list-style-type: none"> ✓ 国内は自動車関連等の設備投資意欲の高まりにより回復 ✓ 海外は経済活動の再開により回復 ✓ 一定の水準までは回復したが、一部慎重姿勢も続く |
| 取り組み実績 | <ul style="list-style-type: none"> ✓ 【リアル】国内外展示会の出展、対面での営業活動の強化 ✓ 【デジタル】HPやSNSの活用により、お客様との接点を強化 ✓ 自動化システムを付加したソリューション提案の推進 |

■ 工作機械事業の状況

受注の回復を最優先課題とし、
「自動車関連向け強化」と「新規開拓」を意識した営業活動を実施

自動車関連向けの更なる強化

- ・変化していく自動車業界への対応
- ・自動化ソリューション提案の推進
- ・地域ごとの受注実績を精査した販促活動

新市場・新しい加工分野の開拓

- ・商社、ディーラとの連携を強化
- ・建機、半導体、船舶、農機ほかへのアプローチ強化による受注獲得

顧客の投資ニーズに適切に対応し
更なる受注拡大

収益源の多様化を推進

リアルとデジタルの両面からの営業活動



MECT2021(名古屋)やEMO(イタリア)出展

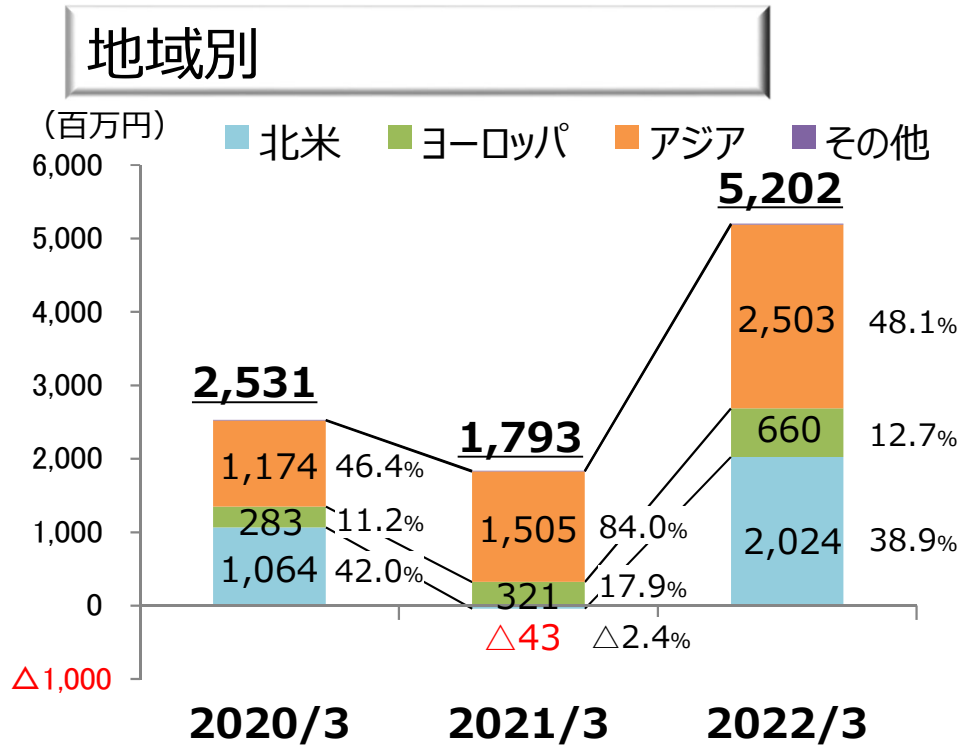


オンライン展示会実施、SNSの活用

お客様との接点の
強化・多様化

■ 工作機械事業の状況

海外受注高の推移



主要な国別

(百万円)

| | 2020/3 | 2021/3 | 2022/3 |
|------|-------------------|-----------------|---------------------------|
| アメリカ | 1,068 (△44.1%) | △225 (-) | 1,848 (-) |
| 中国 | 349 (△85.8%) | 535 (+53.3%) | 1,041 (+94.6%) |
| タイ | 312 (△75.7%) | 578 (+84.9%) | 480 (△17.0%) |
| ベトナム | 112 (△47.3%) | 67 (△40.5%) | 397 (+493.4%) |
| イタリア | 50 (+0.3%) | 21 (△58.2%) | 280 (+1,237.9%) |

(注) %表示は対前期増減率

決算のポイント

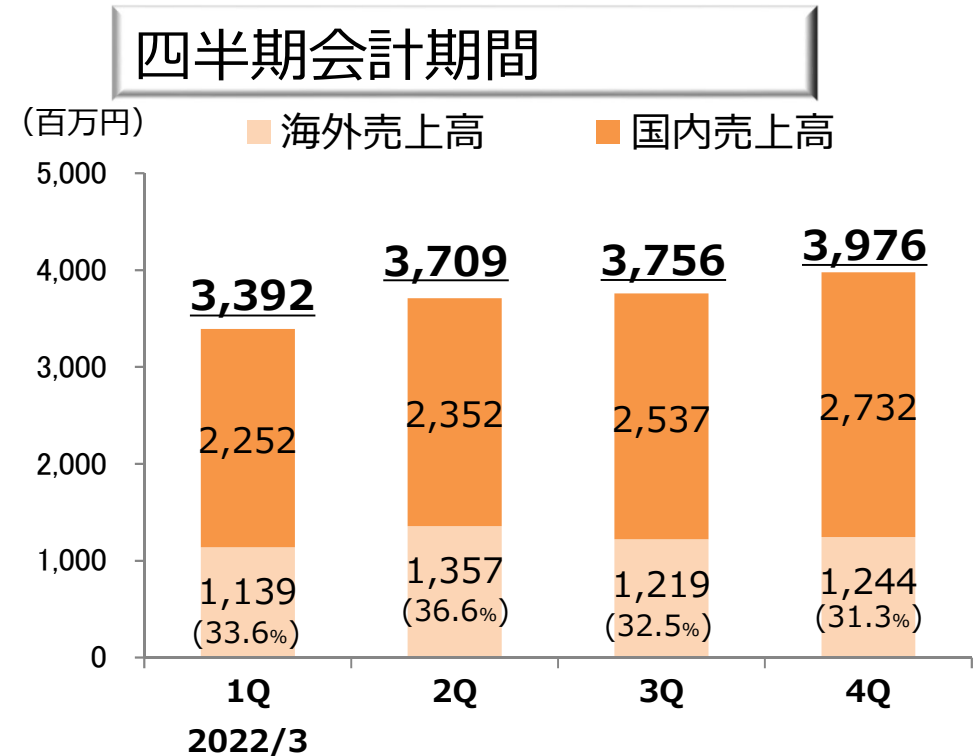
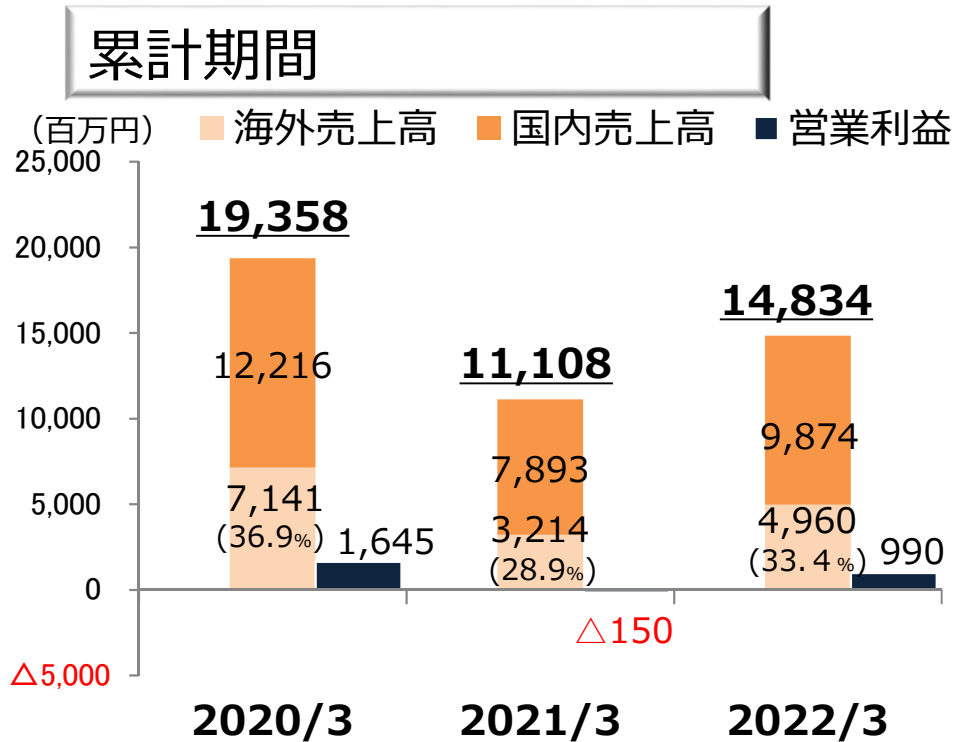
- ✓ アメリカは人手不足による省人化ニーズが拡大
- ✓ 設備投資意欲が盛んな中国で大幅に増加
- ✓ 販売網再編の成果により、ヨーロッパ向けが増加

取り組み実績

- ✓ 各国ディーラへのデモンストレーションによる現地営業力の強化
- ✓ WEBを活用しつつ各地域に適した営業戦略を推進

■ 工作機械事業の状況

売上高・営業利益の推移

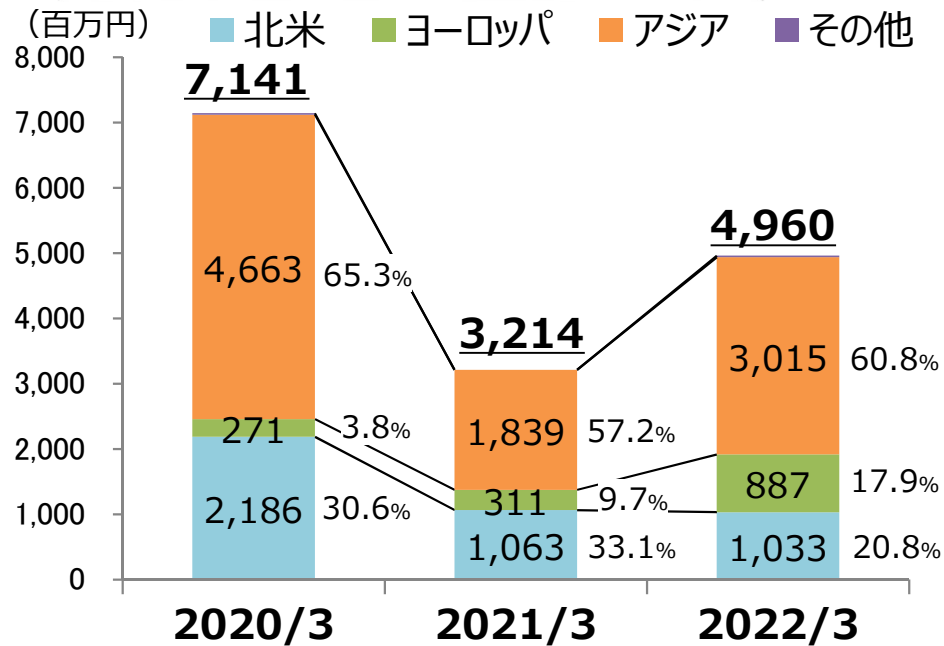


| | |
|---------|--|
| 決算のポイント | <ul style="list-style-type: none"> ✓ 受注回復に伴い、売上高および営業利益が改善 ✓ 部品不足問題があったものの、安定生産に努めたことで、年間を通じて内需・外需ともに堅調に推移 |
| 取り組み実績 | <ul style="list-style-type: none"> ✓ 仕入先との情報共有の強化、先行調達、代替品活用 ✓ IoTやAI等のデジタル技術を活用する研究開発の推進 |

■ 工作機械事業の状況

海外売上高の推移

地域別



主要な国別

(百万円)

| | 2020/3 | 2021/3 | 2022/3 |
|------|--------------------|-----------------|----------------------------------|
| 中国 | 2,572 (△11.6%) | 595 (△76.9%) | 1,247 (+109.6%) |
| タイ | 1,175 (+11.6%) | 457 (△61.1%) | 893 (+95.3%) |
| アメリカ | 2,089 (+114.5%) | 870 (△58.3%) | 657 (△24.5%) |
| ベトナム | 296 (△8.7%) | 145 (△50.9%) | 411 (+183.5%) |
| ドイツ | 100 (△19.1%) | 131 (+31.1%) | 339 (+157.9%) |

※ %表示は対前期増減率

決算のポイント

- ✓ 受注拡大に伴って売上増加
- ✓ 需要回復により、現地在庫機の販売が拡大

取り組み実績

- ✓ 各地域における販売経路・体制の整備
- ✓ ディーラとの協業による販促活動の強化

■ あさひ工場の完成

フラッグシップ・ファクトリー（旗艦工場）である
「あさひ工場」が2022年4月4日に操業を開始



- 環境に配慮した設備
- I Tの積極的活用
- 安心・安全設計の製造フロア
- 社員の健康と楽しみをつくるカフェテリア

SDGsを意識し、
人にも環境にも優しい工場へ



| あさひ工場概要 | |
|---------|-------------------------|
| 住所 | 石川県白山市旭丘4丁目13番地 |
| 敷地面積 | 36,375.42m ² |
| 延床面積 | 11,293.26m ² |
| 人員 | 約160名（主に営業部門、製造部門） |



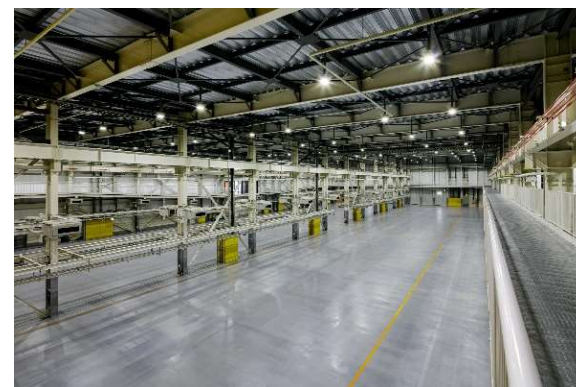
地下水を利用し
予冷・予熱効果が得られる
空調システムを導入

■ あさひ工場の完成

あさひ工場が当社の更なる飛躍に向けての足掛かりに

更なる生産拡大の体制確立

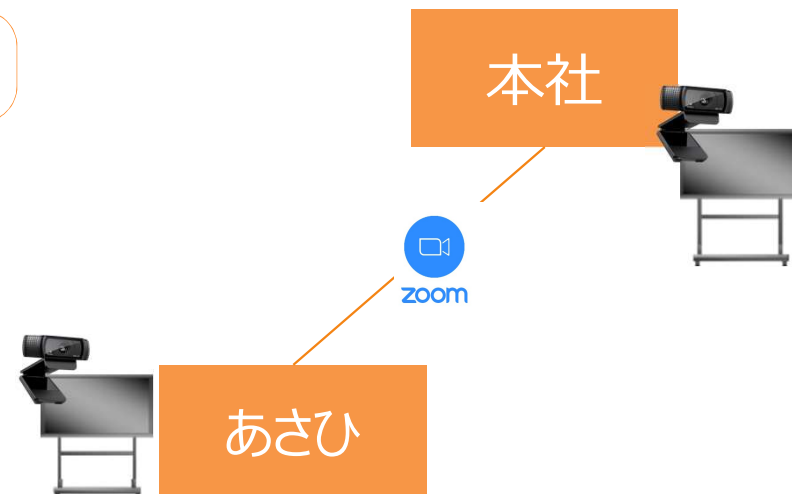
- ・連結売上高300億円を目指す体制へ
- ・湿度や温度が一定に保たれた作業環境
- ・多様なニーズにも柔軟に対応できる製造ライン



あさひ工場製造フロア

本社⇔あさひ工場間の距離を解決

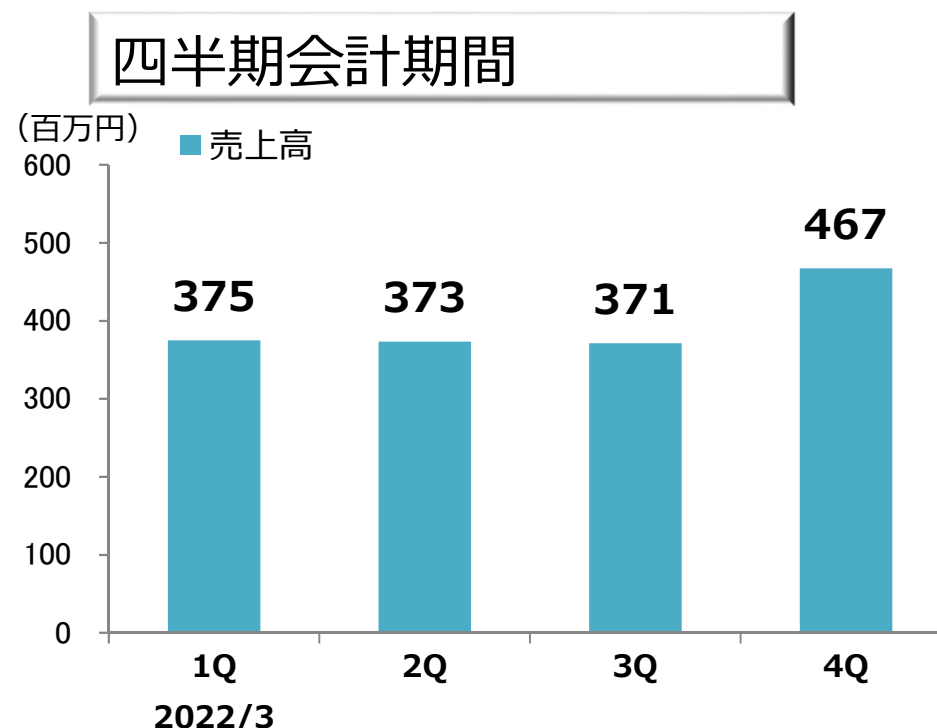
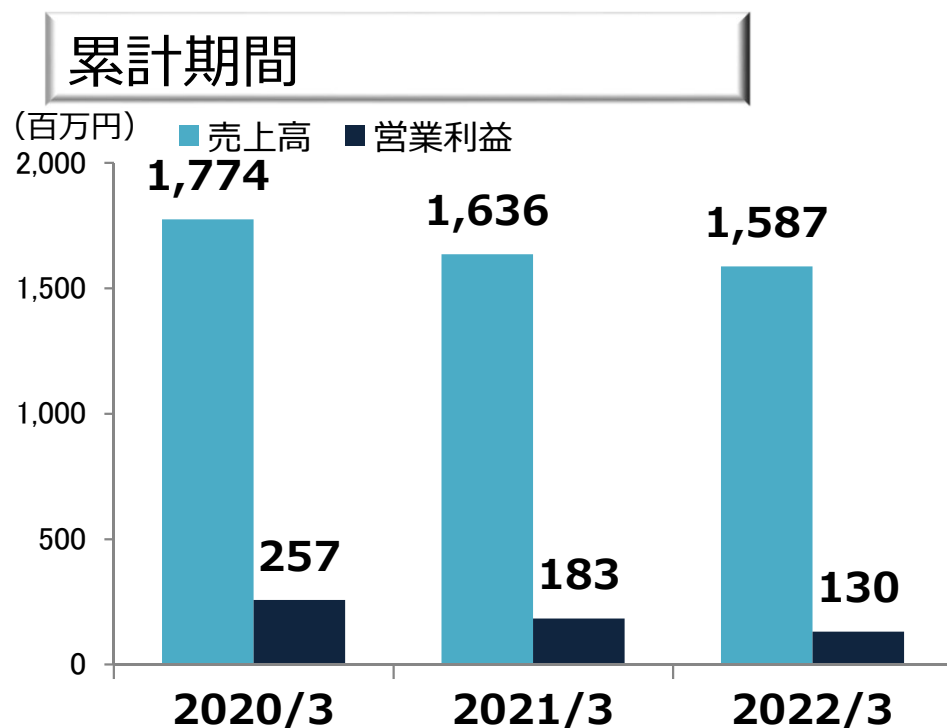
- ・本社とあさひ工場をつなぐコミュニケーションモニター
- ・最新鋭のWEB会議設備
- ・全生産拠点の無線LAN化



常設コミュニケーション環境

I T 関連製造装置事業の状況

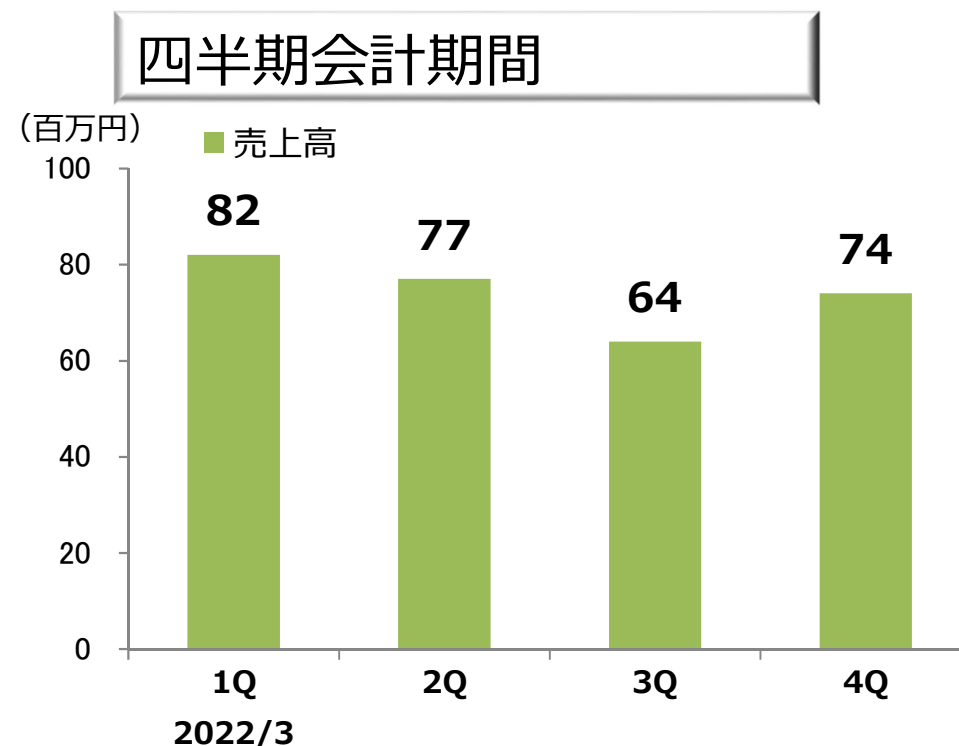
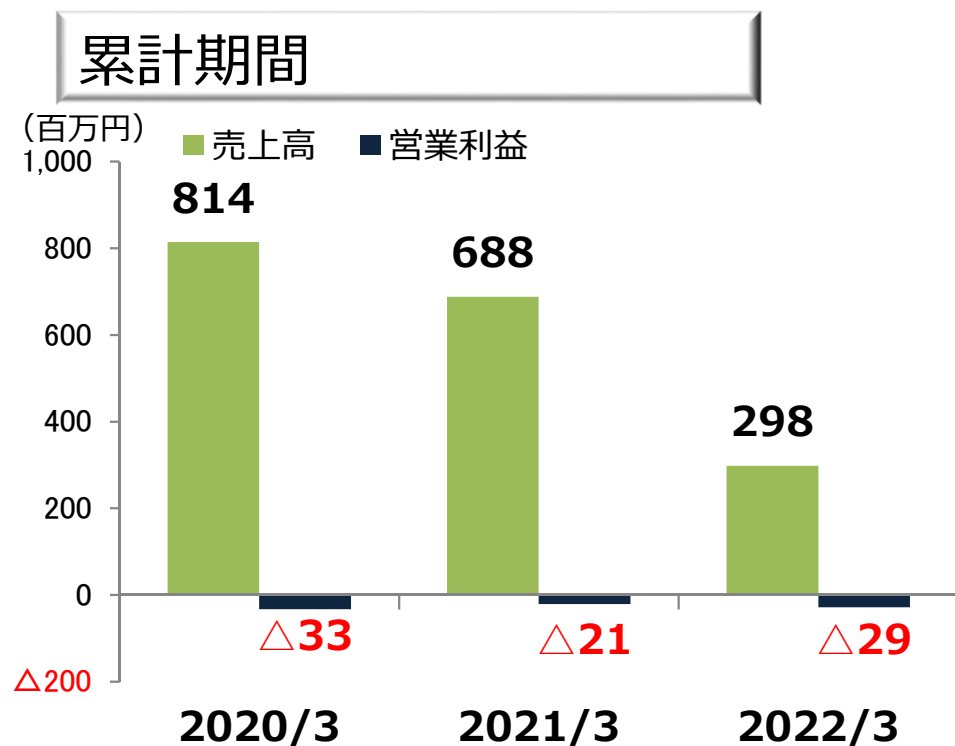
売上高・営業利益の推移



| | |
|---------|---|
| 決算のポイント | <ul style="list-style-type: none">✓ 半導体関連におけるリピート受注により売上高は堅調に推移✓ 製品構成比および材料費高騰の影響により営業利益は減少 |
| 取り組み実績 | <ul style="list-style-type: none">✓ WEBを活用した商社や取引先への積極的な営業活動✓ 工数分析と作業改善による製造リードタイムの短縮✓ フレキシブルな生産体制構築による納期遵守 |

自動車部品加工事業の状況

売上高・営業利益の推移

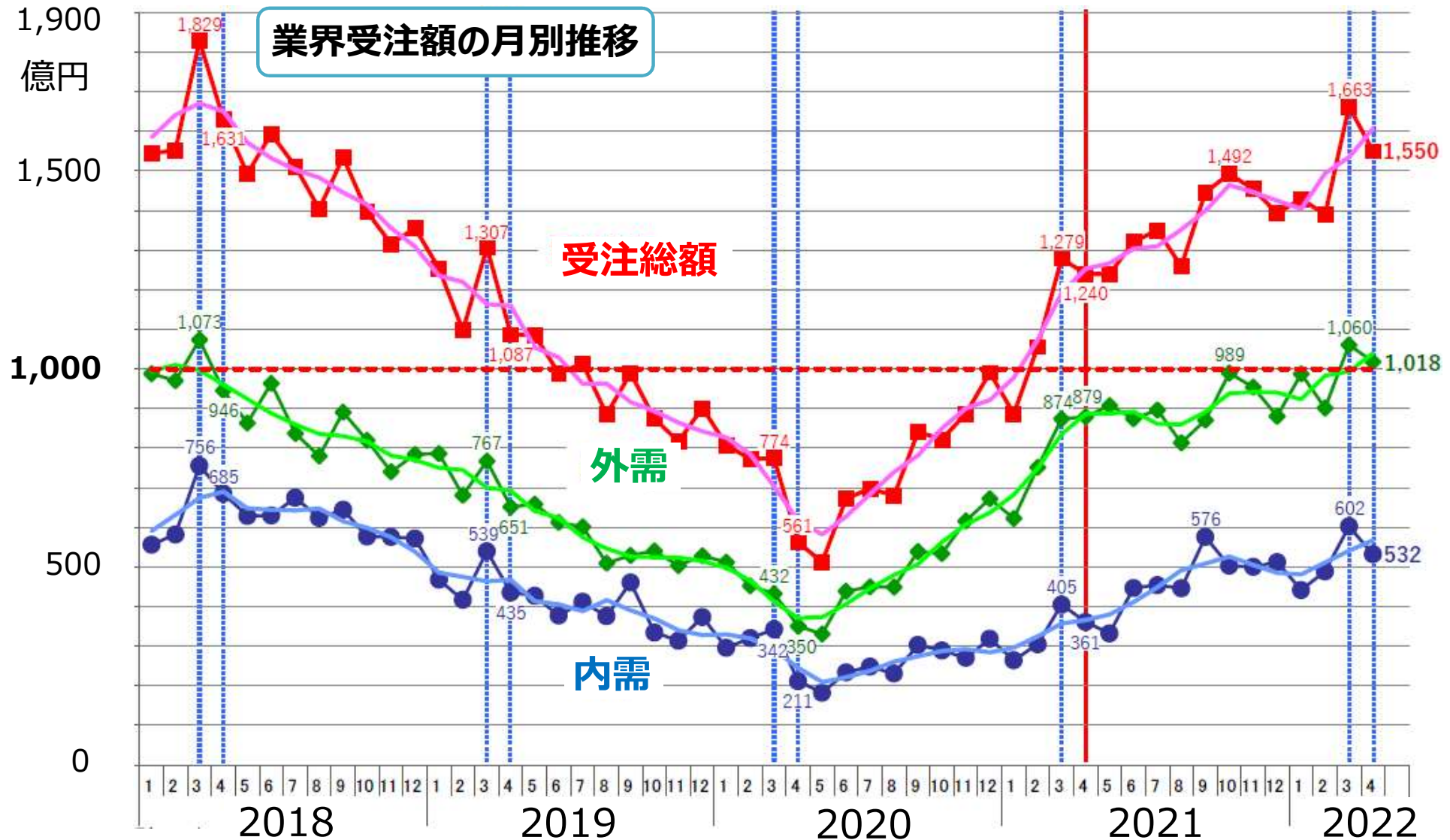


| | |
|---------|---|
| 決算のポイント | <ul style="list-style-type: none">✓ 取引先の減産の影響により生産高や利益を押し下げ✓ 「収益認識会計基準」の適用により、売上高が4億24百万円減少（利益に対する影響はなし） |
| 取り組み実績 | <ul style="list-style-type: none">✓ ライン負荷状況の監視と予防保全による可動率の向上✓ 工作機械事業のノウハウを活かした生産設備の導入 |

2 今期見通し

工作機械業界の動向

(出典：日本工作機械工業会)



- 2020年5月を底に回復基調で推移し、2021年2月以降は1,000億円超が続く
- 先行きは、ウクライナ問題、コロナ感染拡大、部品不足、原材料高騰に注視が必要
- 自動化ニーズ等による需要増のほか、遅れていた自動車関連需要の回復も期待

業績予想

(単位：百万円)

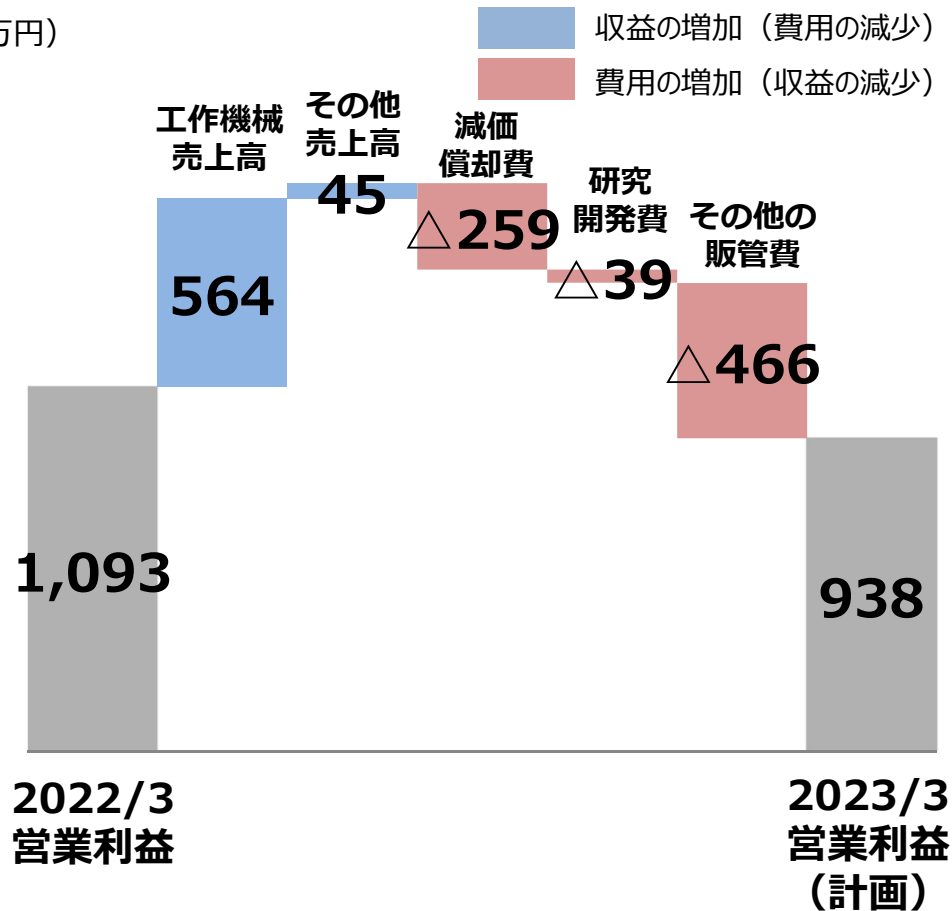
| | 2021/3 実績 | 2022/3 実績 | 2023/3予想 | |
|-----------------|---------------|---------------|---------------|-----------------|
| | | | 見込み | 前期比 |
| 受注高 | 6,727 | 13,321 | 13,650 | +2.5% |
| 売上高 | 13,432 | 16,720 | 18,735 | +12.0% |
| 工作機械事業 | 11,108 | 14,834 | 16,741 | +12.9% |
| I T 関連製造装置事業 | 1,636 | 1,587 | 1,650 | +3.9% |
| 自動車部品加工事業 | 688 | 298 | 343 | +15.2% |
| 営業利益 | 6 | 1,093 | 938 | △14.3% |
| 営業利益率 | 0.0% | 6.5% | 5.0% | △1.5ポイント |
| 経常利益 | 233 | 1,180 | 1,044 | △11.5% |
| 親会社株主に帰属する当期純利益 | △115 | 795 | 790 | △0.6% |
| 1株当たり当期純利益（円） | △10.56 | 73.03 | 73.06 | +0.0% |

- ✓ 新型コロナウイルス感染症やウクライナ情勢等から、先行きに不透明感があるものの、緩やかな経済回復が継続することが見込まれ、売上高は更なる増加を予想
- ✓ あさひ工場の操業開始に伴うコストが増加

業績予想

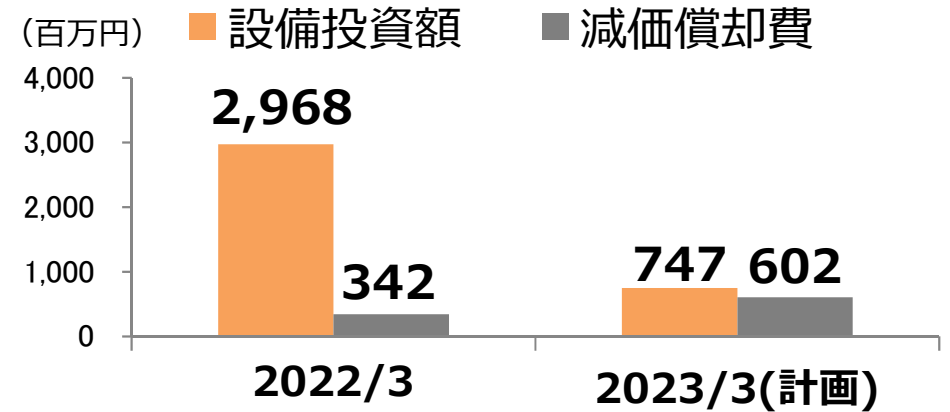
営業利益増減分析

(百万円)



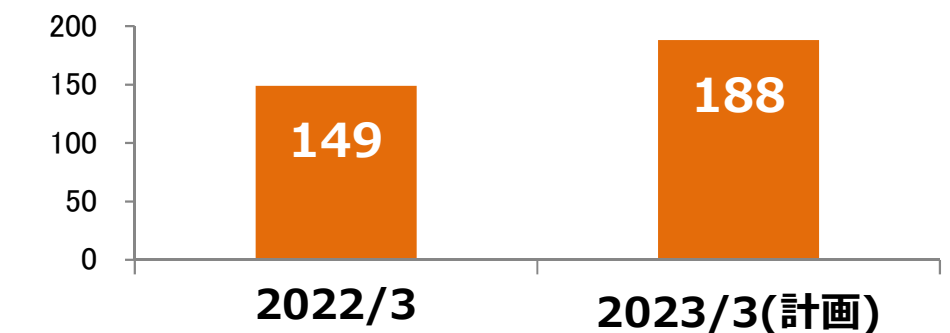
設備投資額・減価償却費

(百万円)



研究開発費

(百万円)



- ✓ 材料費高騰や人件費等の増加、あさひ工場の減価償却費等の負担によるコスト増
- ✓ あさひ工場を最大限活用した効率的な生産や適正な価格での受注の推進
- ✓ 更なる成長に向けた設備投資を継続

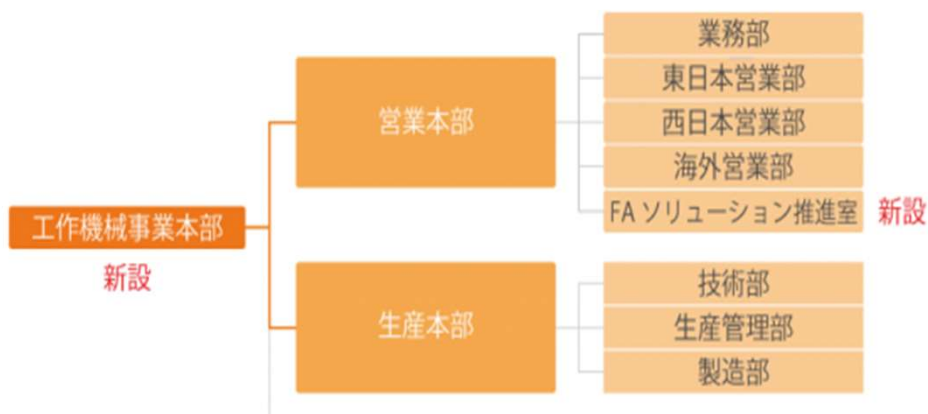
3

事業戦略

■ 主要戦略

1. 受注高の拡大

新組織による事業体制の強化



- ・工作機械事業本部の新設による生販一体の強化
- ・FAソリューション推進室による自動化やロボットなどの新たな市場の開拓

変化する市場への対応と開拓



- ・省人化、ロボット、EV部品、SDGs、カーボンニュートラル等のニーズ取り込み
- ・高付加価値なオプション群によるソリューション提案

新しい営業手法の推進



主軸ガタの確認方法



2022.04.12

旋盤加工における潤滑油の役割と選定時の注意点を解説!

- ・コロナの環境下で培ったWEBを活用した営業展開

■ 主要戦略

2. 新しい挑戦による粗利拡大

- 本社工場の生産レイアウト見直し、設備投資
- 作りやすさを追求した製品開発
- 次世代ITシステムの構築
- 原材料高騰に対する適正な利益の確保



3カ年計画による本社工場の生産性向上

3. 働きやすく、働きがいのある職場づくりと人材育成

- 社員エンゲージメントの向上による生産性向上
- 働きやすさを追求した本社機能の強化
- 現場経験の浅い若手社員の教育を担う部署の新設



本社食堂のリニューアル

■ 主要戦略

4. 環境変化への対応

- ✓ 100年に1度の自動車産業の大変革
- ✓ サステナビリティ、SDGs、ESGに対する取り組み要請

● 創業90周年(2038年)に向けた社内プロジェクト

- ・トップ層(経営幹部)とミドルボトム層(中堅若手社員)でそれぞれプロジェクトチームを立ち上げ、会社の未来について議論

● サステナビリティの全社的な推進

- ・モノづくりを通じたマテリアリティ(重要課題)の解決

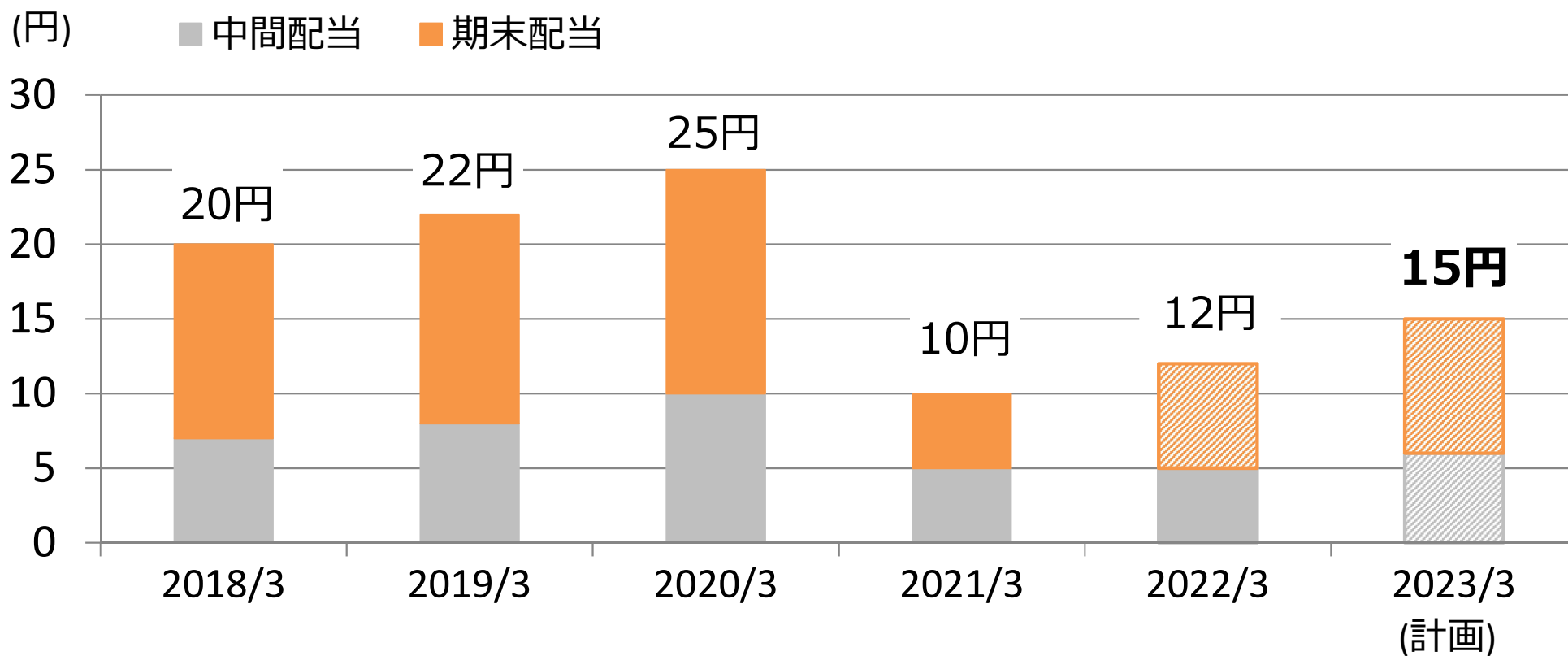
高松機械工業のサステナビリティ基本方針

常に挑戦し続けるモノづくりを通じて、
企業価値の向上と持続可能な社会の実現に貢献する

株主還元

配当方針

- ◆株主の皆様に対する利益還元を経営の重要課題の一つと位置付け、安定的な配当水準を維持
- ◆将来の利益の成長および企業価値の向上に資する事業投資に充当するため、必要な内部留保を行う



4

中期計画 2024

■ 中期計画 2024 の概要

基本方針

チェンジ！チャレンジ！2024！

当たり前を「変える」、新しいことに「挑戦する」

2024年度数値目標

(1)

連結営業利益率

8%以上

(2)

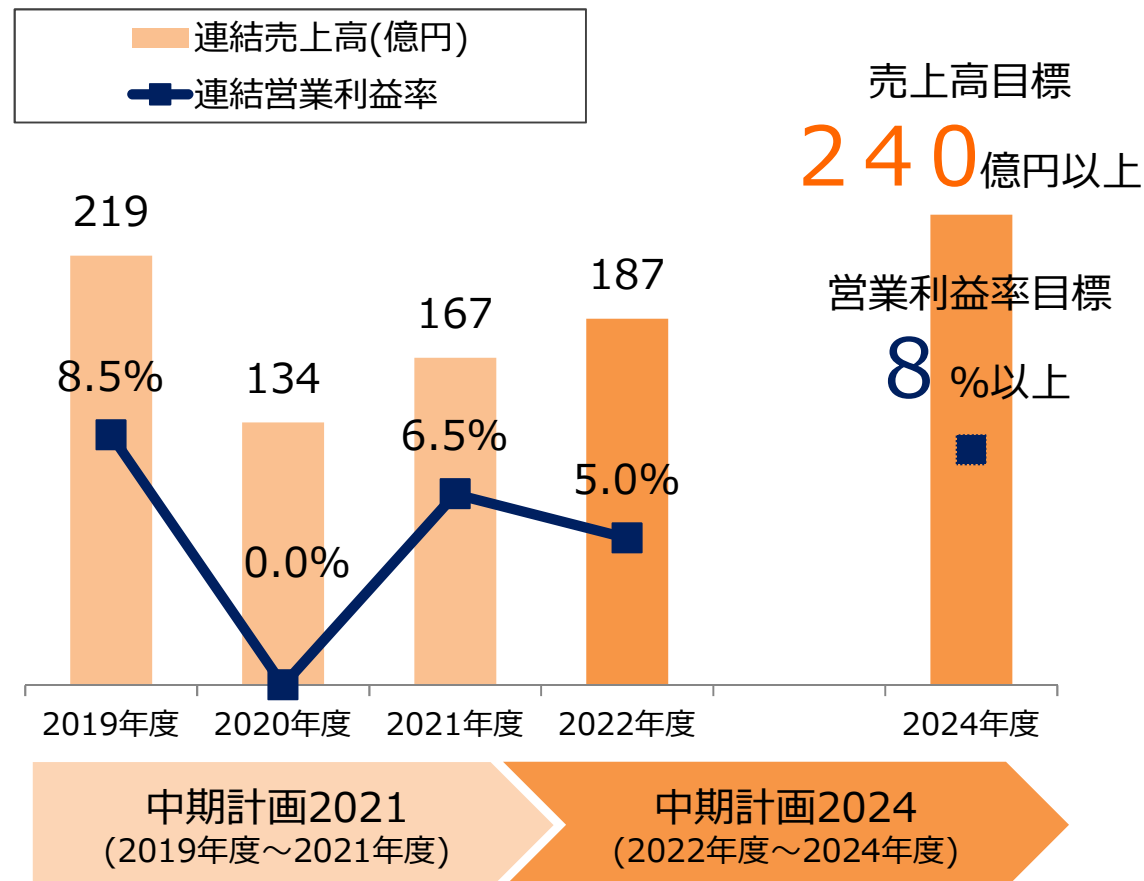
連結ROE

8%以上

(3)

連結売上高

240億円以上



■ 中期戦略

5つの主要戦略のもと、積極的なチェンジ・チャレンジで更なる成長を遂げ、過去最高の売上高達成をはかる

工作機械事業の
質的転換

- ・コア事業で新しい価値を提供

収益構造の改善

- ・付加価値と生産性の追求

過去最高
連結売上高

240億円達成

経営基盤の強化

- ・人材への投資、あさひ工場の最大活用

加速する事業環境
変化への対応

- ・創業90周年(2038年)に向けた全社的プロジェクトチーム

サステナビリティの
実現

- ・ESG視点での取り組みの加速

サステナビリティの実現

サステナビリティに対する考え方……

【環境】地球環境の保全と利用のバランスを維持し、持続可能な世界を目指すことを、重要な社会課題と認識

【社会】地域社会と共生し、成長発展する好循環を生み出すことが重要と認識

【ガバナンス】・社員すなわち「人材」こそが、企業の成長や発展の源泉であると認識

・企業活動の土台である経営基盤の強化を重要な課題と認識

《サステナビリティ体系図》

| | 分類 | マテリアリティ | 取り組み方針 | SDGsの達成 |
|----------------------|-------------------|--------------------------------|--|---|
| ESG | ① 環境 (E) | モノづくりを通じて 地球環境の 負荷を軽減します | ①地球にやさしい製品を提供します。 |  |
| | | | ②企業活動での省エネルギー化を推進します。 | |
| | | | ③政府方針に準じてカーボンニュートラルを推進します。 | |
| | ② 社会 (S) | モノづくりを通じて 社会に貢献します | ①安全・安心・高品質な製品を安定的に提供します。 |  |
| | | | ②アフターコロナを見据えた企業活動を推進します。 | |
| | | | ③協力企業と連携します。 | |
| | | | ④地球社会に貢献します。 | |
| | ③ ガバナンス (G) | 社員と会社の 持続的な成長を 目指します | ①働きやすい、働きがいのある職場環境を整備することで、従業員エンゲージメントを高めます。 |  |
| | | | ②健康経営を推進します。 | |
| ③挑戦し、成長し続ける社風を醸成します。 | | | | |
| 経営基盤を | | ①全社最適な会社運営を行います。 | | |
| | | | ②事業ポートフォリオへの分析に基づく経営資源の投入を行い、持続的な会社発展に努めます。 | |

(参考) 会社概要

■ 会社概要



| | |
|---------|-----------------------------|
| 会社名 | 高松機械工業株式会社 |
| 設立年月日 | 1961年7月1日 |
| 所在地 | 石川県白山市旭丘1-8 |
| 資本金 | 18億35百万円 |
| 発行済株式総数 | 1,102万株 |
| 正社員数 | 連結：611名 単体：533名（2022年3月末現在） |
| 上場取引所 | 東京証券取引所スタンダード市場（証券コード 6155） |

事業内容

工作機械事業 (148億34百万円)

- CNC旋盤、周辺装置の製造、販売、サービス・メンテナンス



- コレットチャックの製造、販売



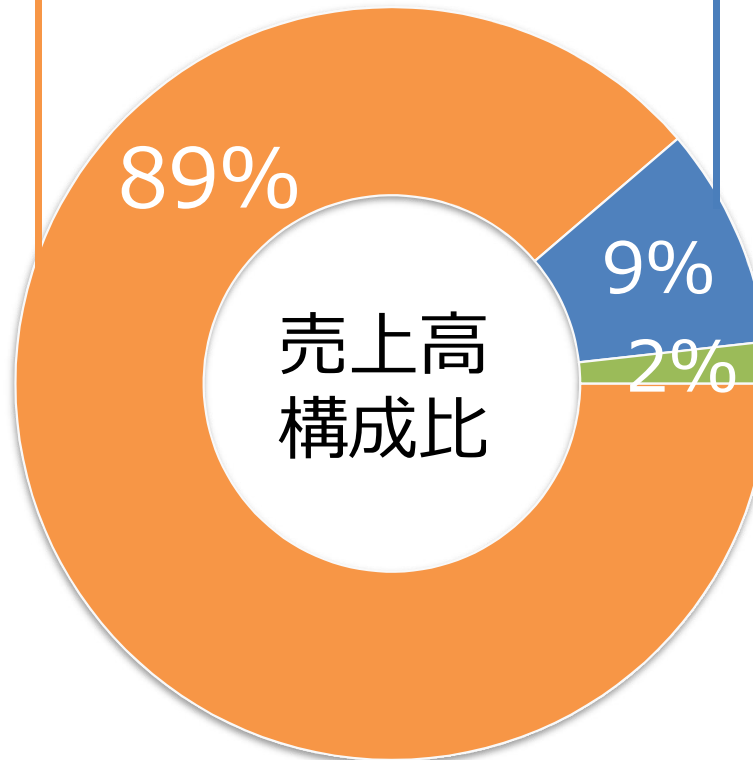
I T 関連製造 装置事業 (15億87百万円)

液晶基板や半導体
などに関する
製造装置の製造



自動車部品 加工事業 (2億98百万円)

自社製旋盤による
自動車部品の加工



■ 営業拠点・グループ会社

国内営業拠点：9か所

関東、大阪、名古屋、
浜松、厚木、東北、
北陸、信越、広島

国内グループ会社：2社

- タカマツエマグ
- FTJ

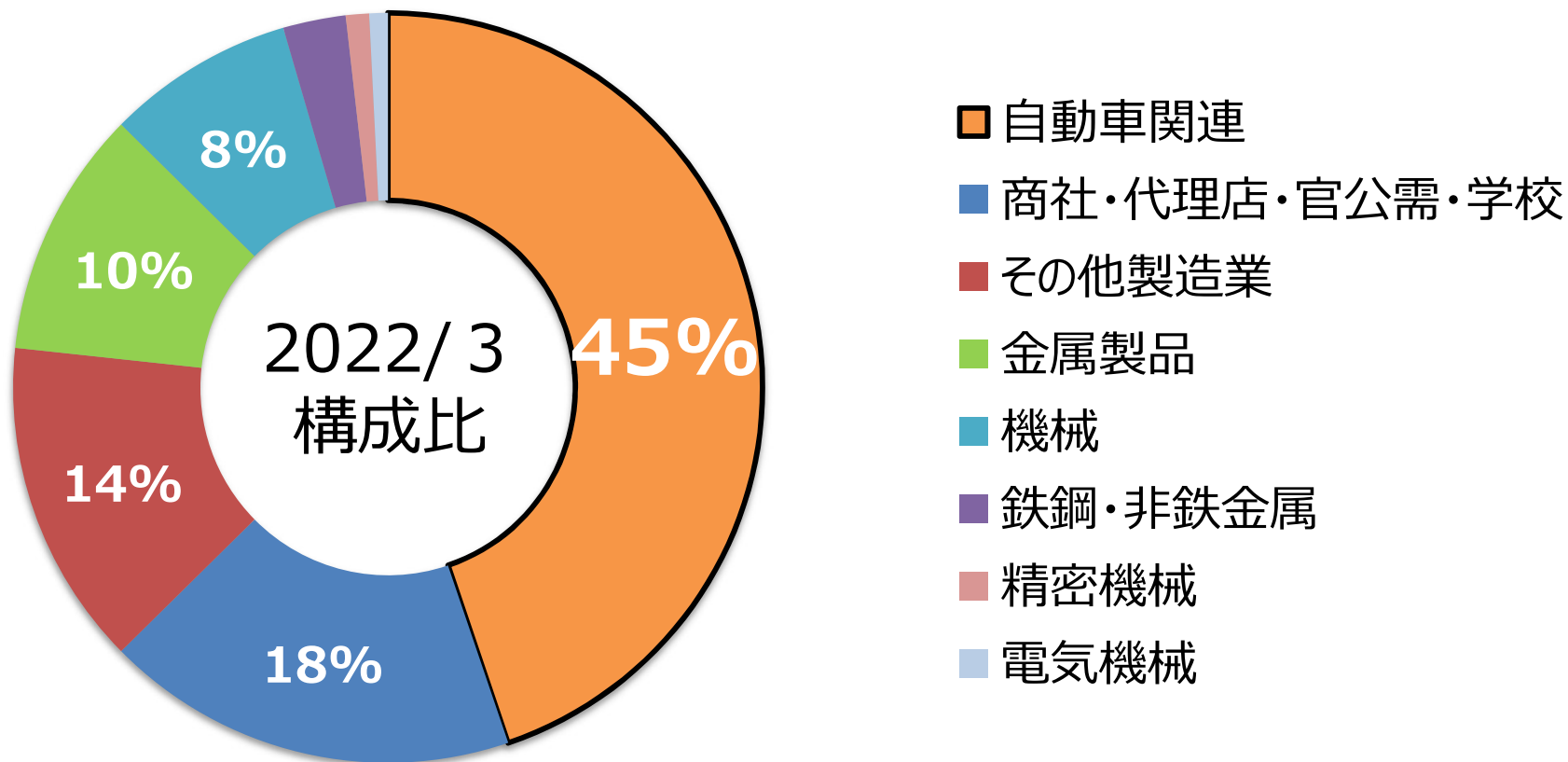
海外グループ会社：9社

- TMU (アメリカ)
- TME (ドイツ)
- TMT (タイ)
- TPMP (タイ)
- 喜志高松 (中国)
- 友嘉高松 (中国)
- PTTI (インドネシア)
- TMVN (ベトナム)
- TMMX (メキシコ)

国内では、自動車産業が盛んな地域での営業拠点の開設
海外では、ユーザの海外進出に対応すべくグループ会社の設立

迅速かつ適切なサービス・メンテナンスの提供

業種別受注先の状況



➤ これまでの主な納入先

トヨタ自動車 ・ SUBARU ・ 日産自動車
デンソー ・ マツダ ・ 豊田自動織機 ・ ヤマハ
ダイハツ ・ 本田技研 ・ 川崎重工業 ・ 三菱グループ

■ 当社製品による加工例

自動車関連



- ✓ 自動車のエンジンやミッション、足回りの部品など、幅広く使用される
- ✓ EV（電気自動車）・ハイブリッドカーの部品にも使用される

その他加工事例

- 建設機械
- バイク
- 医療機器
- 航空機関連
- 家電製品

新しい市場・新しい加工品
分野の開拓にも注力

■ 自動化技術

● 豊富なノウハウと製品群

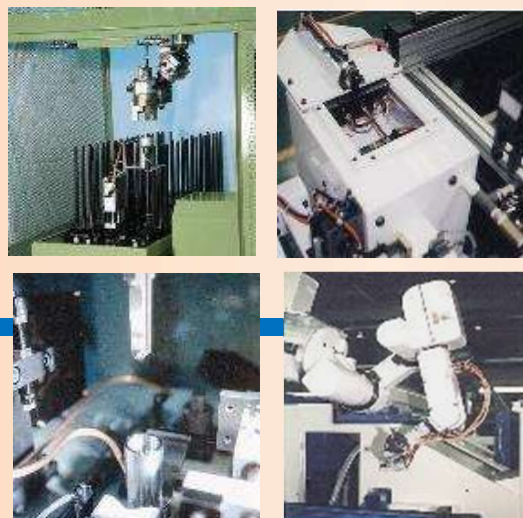
- 早くから自動化技術に取り組み、実績を積み上げ
- 自動化技術を組み合わせお客様に最適の生産ラインを提供

● 設計～製造まで一貫した生産体制

自動化装置・システムを自社で開発



当社CNC旋盤



自動化装置群



お客様仕様の生産ライン

多様な製品ラインナップ

ユーザーニーズに応える製品開発

高精度・高品質を維持しつつ生産性の向上を実現

省エネ・省スペース

環境負荷の低減

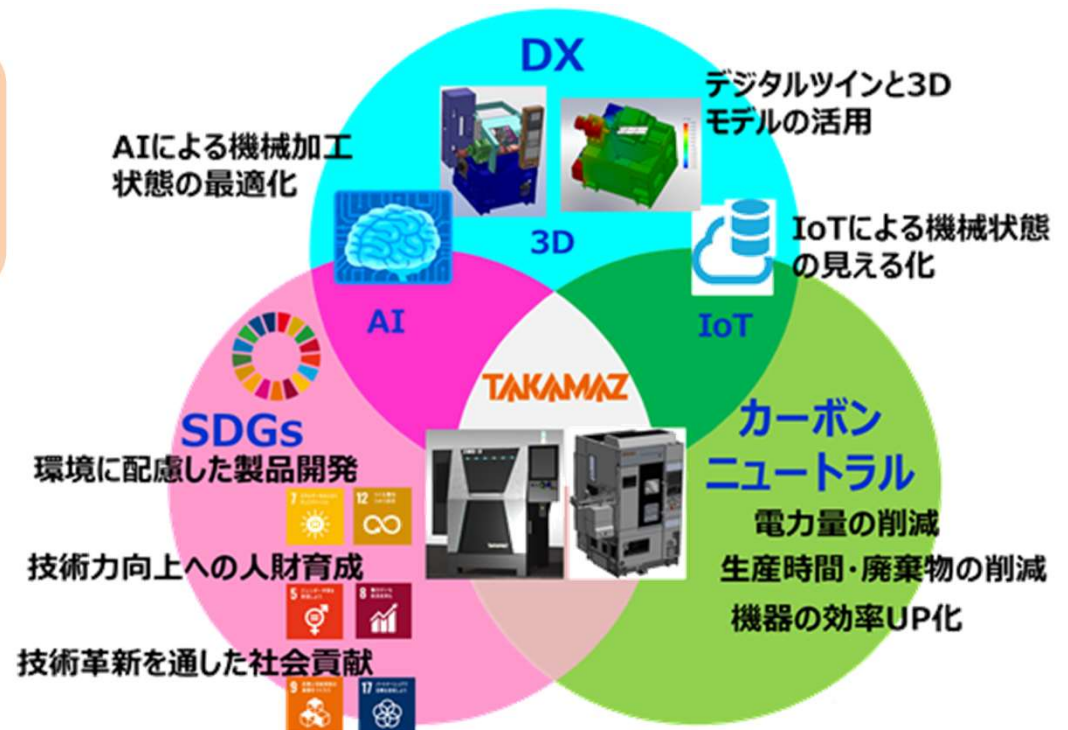
機能を特化した
戦略機種

新製品開発の取り組み

「DX」・「SDGs」・「カーボンニュートラル」の
3つのキーワードで
新製品開発を進めています。



6月6日～10日に開催した
あさひ工場プライベートショーで注目の製品を多数展示



営業体制

提案型営業

営業員全員がセールスエンジニア

技術的専門知識を備えた営業員が
加工ラインや加工方法をその場で提案



地域密着型営業

国内・海外に広がるネットワーク

各地域のニーズに対応

ユーザからの
リピート受注率 90%

TAKAMAZ

<https://www.takamaz.co.jp>

